

## 第80回町田市環境審議会 議事要旨

【日 時】2021年7月13日(火) 18:30 -20:00

【場 所】Web会議

【出席者】

委 員：堂前委員(会長)、鳴海委員(職務代理)、根本委員、藤倉委員、佐藤委員、仁部委員、野村委員、宮下委員、大谷委員、木村委員、瀬田委員、渡邊委員

事務局：環境資源部 野田、環境政策課 宮坂、池澤、土志田、井上、香山、西、藤森、環境・自然共生課 藤原、大西、野地

傍 聴：3名

【欠席者】

委 員：なし

【資料】

資 料 1：策定スケジュール

資 料 2：第3次町田市環境マスタープラン(素案)

資 料 3：意見シートについて

参考資料 1：成果指標一覧

参考資料 2：第10期町田市環境審議会委員名簿

【開会】

- 堂前会長から、出席者の確認を行った。

【報告】

策定スケジュールについて(資料1)

- 事務局から、資料1に基づいて説明を行った。

前回からの修正点等について(資料2)

- 事務局から、資料2に基づいて説明を行った。

大谷委員：環境に関する意見交換会の概要を教えてください。

事 務 局：5月23日に午前、午後の計2回実施し、それぞれ10名、9名の参加があった。

大谷委員：参加者に今後関わってもらえる機会などはあるのか。

事 務 局：実際に参加者から、今回のような意見交換会があれば参加したいとお声はいただいているが、具体的な開催予定は、現時点ではない。機会があれば、参加はしていただければと考えている。

大谷委員：意見交換会を通して、お互いに話しやすい環境や場づくりができたと思う。意見交換会のグループ等をつくって、今後も意見交換等を継続してもらいたい。

事 務 局：前向きに検討する。

【議題】

「第3次町田市環境マスタープラン」の素案について

(1) 成果指標について（資料2、参考資料1）

- 事務局から、資料2、参考資料1に基づいて説明を行った。

=基本目標1=

渡邊委員：仁部委員へ質問したい。市内の再生可能エネルギー導入量の把握方法は、FIT制度以外にないか。

仁部委員：社内でも確認のうえ、事務局へ情報提供を行う。

事務局：仁部委員から情報提供があり次第皆さんへ共有する。（後日、仁部委員から「社内で確認、検討を行った結果、現段階では事務局案であるFIT制度が妥当である」と回答を得た）

鳴海委員：市内のエネルギー消費量は約40%削減だが、市内の温室効果ガス排出量は約33%削減となっており、数値に乖離があるのではないか。また、EV、FCVの割合の目標値が2.01%はかなり少ないのではないか。

コンサル：市内のエネルギー消費量を用いて市内の温室効果ガス排出量の将来推計を行っているため整合はとれている。可能性としては、温室効果ガスのうち近年大幅に増加しているフロン類の影響が考えられる。これは日本全体での傾向でもある。

事務局：EV、FCVの割合もこれまでのトレンド推計によって算出している。重点プロジェクトによる導入加速も見込まれるため、もう少し上積みすることも考えられる。

鳴海委員：市内の温室効果ガスの9割はエネルギー起源二酸化炭素であるはず。透明性の確保も必要であるため、根拠資料があれば提示して欲しい。

コンサル：計算シートに基づき説明資料を用意する。

=基本目標2=

大谷委員：「市民協働による生きもの調査」の参加者とは、通信等を送付するなど、その後も連携をとることはあるか。

事務局：市の取組はホームページで公開しているほか、数ヶ所の公園で情報発信をする場を設けている。

藤倉委員：まだアンケートによる市民の割合が多い印象である。例えば、市内で外来生物が発見された数、生息する生物の種類数など、把握が難しいとは思いますが、生物多様性を客観的に測れる指標、また取組内容と合った指標を検討してはどうか。

事務局：前回の審議会のご意見を踏まえて「市民協働による生きもの調査の参加者数」を追加したが、これ以外の数値的な設定は現状想定していない。現行の「町田生きもの共生プラン」策定時に生物相調査を実施したが、外来生物の防除効果を数値化することは難しい。今後ご助言をいただければありがたい。

鳴海委員：目標年度が2030年と2031年度のものが混在しているが、使い分けはあるのか。

事務局：地球温暖化対策実行計画（区域施策編）及び昨年度策定された第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画と整合を図った指標が2030年度になっており、それ以外が2031年度の目標年度となっている。

鳴海委員：では、計画の評価年度はいつになるのか。

事務局：評価自体は2031年度の数値で実施するが、2030年度が目標年度になっている指標については、2030年度時点の数値で評価することになる。

事務局：現状目標値を「増加」としているものの数値設定など、今後も指標は検討を重ねていく。

＝基本目標3＝

根本委員：総資源化率の指標について、サーマル利用も含めるのか。また、生ごみからのメタンガスの用途は何か。

事務局：サーマルリサイクル分は含めず、メタン化したものを含めて算出している。メタンガスは発電に使用する。

鳴海委員：施策2、施策3における「達成に寄与する取組方針」のうち④はどれにあたるか。

事務局：誤植であるため修正する。

＝基本目標4＝

特になし

＝基本目標5＝

大谷委員：施策1「さまざまなエコ市民の育成と協働のネットワーク構築を進めます」はとても良い施策と思うが、具体的にどのような構築を考えているのか。

事務局：市民等の参加、協働を呼びかけて連携の仕組みをつくりたいと考えている。具体的な取組内容は今後検討することになる。

瀬田委員：SNSを拝見すると、事後報告ばかりで活用しきれていないと感じる。新型コロナウイルスの情勢からイベントの告知などが難しい背景もあるかもしれないが、事前の周知等で、上手く活用して欲しい。

事務局：ご意見を参考に、今後のSNS運用に活かしていく。

根本委員：SNSとは、インスタグラム、Twitterのほかは言えないのではないかと。

渡邊委員：SNSのフォロワー数とあるが、Twitter、Instagram以外に利用しているものはあるのか。また、SNS以外（広報紙など）でも情報発信していることは承知しているが、それにしても目標フォロワー数が『4,000』では情報が必要なところに届かない。ぜひ見直しをしてほしい。

事務局：YouTubeも運用しているが、町田市全体で運用しているものなので町田市環境マスタープランの指標とはできない。ほかに加えられるものがないか、また目標値についても検討する。

## (2) 重点プロジェクトについて (資料2)

- 事務局から、資料2に基づいて説明を行った。

根本委員：主要な分野が網羅されており、昨今の世界的な潮流が反映されているとともに、市民にとっても身近なものになっており素晴らしい。

堂前会長：新しい挑戦となるので、検討の過程などをSNSで発信したら良いのでは。

藤倉委員：フードドライブは関心が高い事業ではあるが、誤解されないように補足説明する。確かにごみのうち2%は未開封の食品ではあるが、フードドライブに適さない生ものが多い。フードドライブに適するのは米や缶詰であり、市民に伝わる仕組みづくりをし、文章も誤解されないように修正するべきである。

事務局：参考にさせていただく。

堂前会長：今後具体的な中身を決める過程で、誤解のないように進められると良い。

## (3) 推進体制・進行管理について (資料2)

事務局から、資料2に基づいて説明を行った。

堂前会長：図23環境審議会の中の「計画の見直しに当たって専門的な調査審議」と記載があるが、毎年度調査審議を行うのか。

事務局：基本的に3年を経過した時点を目途としているが、必要があれば見直す。

根本委員：国のエネルギー基本計画の見直し等、今後さらにエネルギー等の情勢の変化が予想されるため、随時見直すなど柔軟な対応をお願いしたい。

### 【閉会】

- 堂前会長から、閉会の挨拶。

以上